

事務局長就任にあたって

公益財団法人 ダイア高齢社会研究財団 理事事務局長
渡辺 朗



本年6月10日に開催された当財団評議員会におきまして、浅野洋介前事務局長の後任理事として選任され、事務局長を務めることになりました。浅野前事務局長は2018年4月から当財団に6年3ヶ月在籍し、その間、財団事業の安定的な継続に加え、高齢社会に関わる「産・学・官・民」の連携を深めるためのネットワーク構築や、コロナ禍での感染防止対策、テレワーク環境の整備による柔軟な勤務形態の導入など、当財団運営の発展に尽くされました。微力ながらその継承発展に努めてまいり所存でございますので、今後ともご指導ご助言をお願い申し上げます。

今や日本人の10人のうち3人が65歳以上という時代です。以前のように60歳あるいは65歳で仕事の現場から退き、その後は「支えられる人」になるということでは、社会が成り立たなくなってきました。人生100年時代ともいわれますが、これからは65歳を過ぎてもいかに健康で活力をもって生きていくことができるか、それが持続可能な社会経済の発展の鍵のひとつであることは論を俟たないでしょう。

私は前職では長らく生命保険営業の現場に身を置き、日々多くの営業職員と接してまいりました。その中には、65歳を過ぎても毎日はずら

つと働き続けている方が少なからずいらっしゃいます。私もその方々をととても頼もしく感じていました。どうしてそんなに元気に仕事ができるのかと伺う機会があったのですが、多くの方が「行くところがある」、「やる仕事がある」、「待っている人がいる」、「誰かから頼りにされている」などを理由に挙げていました。

いくつになっても人と人との関わり合いを保ちながら、時には助け、時には助けられながら生きる。自分の居場所がある、自分の存在価値を感じることができる。それが活力の源になっているのだらうなと思うとともに、そんな社会になってほしいと考えるようになりました。

当財団は昨年6月に設立30周年を迎え、新たなプロジェクトとして「三菱グループ・リサーチモニター・プロジェクト」を立ち上げ、今年度より「仕事と介護の両立」をテーマに活動を開始しました。「しあわせで活力ある長寿社会」の実現に向けて、これまで蓄積された知見を活かし、当財団の研究や活動が今まで以上に社会に貢献することができるよう努力を重ねてまいります。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。